



いたびっ 板櫃 <校訓> 真理の探究 自主躍進



令和5年9月14日(木)発行
校長 栗原博巳
北九州市小倉北区白萩町8番1号
HP: www.kita9.ed.jp/itabitsu-j/

<学校教育目標>
自立・共生～自立心にあふれ、他を思いやる心をもった生徒の育成～
<目指す生徒像>
① 「時を守り、場を清め、礼を正す」生徒(凡事徹底)
② 自ら考え、正しく判断し、進んで学習や諸活動に取り組む生徒(自立)
③ 思いやりの心を持ち、協力し合って集団生活の向上に努める生徒(共生)
④ 与えられた仕事に対し、役割を果たすことのできる生徒(責任)



9月9日は「救急の日」



あなたが命をつないでくれた

その勇気のバトンを私たちがしっかりと受け継ぎます。

119番で緊急通報
大勢で助けを求め
心臓停止を待つ
救急車を呼ぶ
救急車を待つ
救急車を待つ
救急車を待つ

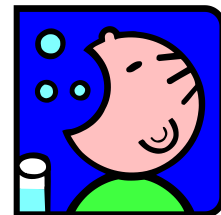
9月9日は救急の日

あなたができること
救命の連鎖
心臓停止の手配
早期発見・通報
二次救命
救急車・医師へつなぐ

救急車の適時・適切な利用をお願いします。
救急搬送の実行については最速の判断をお願いします。
救急車を呼ぶときは必ず「119」をダイヤルしてください。
救急車を呼ぶときは必ず「119」をダイヤルしてください。

インフルエンザの予防及び感染拡大防止について

北九州市教育委員会学校保健課より通知がありましたのでお知らせします。
北九州市感染症発生動向調査によると、インフルエンザについて、令和5年第35週(令和5年8月28日～9月3日)は定点当たり報告数(1医療機関当たりの平均報告数)6.34であり、前週3.54より患者数が増えています。
また、北九州市では、夏休み明けから、小学校20学級、中学校3学級(9月7日時点)でインフルエンザ様疾患による学級閉鎖を実施しています。



今シーズンは、例年になく、早期のインフルエンザの流行となっています。については、下記資料を参考に、インフルエンザの予防及び感染拡大防止に万全を期していただきますようお願いします。

「～新しい生活様式～ともだちにうつさない!! インフルエンザ(10の約束)」解説

○ いわゆる「季節性インフルエンザ」は、感染者から放出されたインフルエンザウイルスが、次のような感染経路を通じ、他者の体内に取り込まれることによって発生する、人から人にうつる感染症です。

<感染経路>

- 1 飛沫感染
感染者が発する飛沫(せき、くしゃみ、だ液等)を他者が吸い込むことによって感染
 - 2 接触感染
1の飛沫、ウイルスが付着した手などを介し、周辺のあらゆる物にウイルスが付着。それに触れた手で眼、鼻、口に触ったり、飲食をしたりすることによって感染
 - 3 空気感染
1の飛沫がエアロゾル化して空気中に浮遊し、他者が吸い込むことによって感染
- そのため、インフルエンザの感染拡大防止は、感染者(疑い者)をいち早く発見し、隔離等を含めた適切な措置を行うことが何より重要です。(元の感染者がいなければ、ウイルスが放出されることもなく、他者が感染することはありません)
- また、感染経路を踏まえた適切な抑止策を講じることにより、インフルエンザの感染機会は大きく減ることになります。

① 朝は、体温を測ってきましょう。

- 感染初期においては、目立った自覚症状がなかったり、また小学校低学年等は、自覚症状があっても正しく伝えられなかったりする場合も考えられます。
- 体温測定は健康状態確認の基本であり、このような場合でも、体温の変化により、いち早く感

染を察知することもできます。

② いつもの体調とちがいが、かぜの症状があるときは、無理をせず学校を休みましょう。

- インフルエンザは、高熱を伴うことが知られていますが、37度台であった例も多く報告されています。また、体温測定が感染初期であれば、その時点ではあまり熱が高くなくても、その後、急激に上昇することも考えられます。
- 前述のとおり、感染拡大防止のためには、感染者（疑い者）の隔離等、適切な措置を行うことが重要です。（インフルエンザ（疑い）患者を診察する際、多くの医療機関で別室隔離措置をとっているのも同じ理由だと考えられます）また、本人の健康のためにも、熱があるときは十分な休養を取らせることが必要です。
※ 基礎体温が高いといった理由で、熱があっても登校してくる例も考えられます。そうした場合は、本人のためにも早急に健康状態を確認してください。また、感染が疑われる場合は別室へ隔離の上、早退等の措置をお願いします。



③ 具合が悪くなったときは、すぐに先生に伝えましょう。

- 前述のとおり、感染拡大防止のためには、感染者（疑い者）の隔離等、適切な措置を行うことが重要です。
- 本人の健康はもちろん、対応が遅れると周囲への感染拡大につながりますので、児童生徒から申し出があった場合は、別室に連れて行く等、即応するようにしてください。
- また、流行期間中は十分に健康観察を行うとともに、具合が悪くなったときは、すぐに申し出ができるよう、声かけや雰囲気づくりに努めていただきますようお願いいたします。

④ せき、くしゃみ、鼻水、のどが痛いときは、マスクをしましょう。

- インフルエンザは、上記のような呼吸器症状を伴いますが、せきやくしゃみなどにより、ウイルスを含む飛沫が放出され、周囲の者への感染が起こります。
- このウイルス飛沫は、感染者（疑い者）が不織布製マスクを装着することにより、99%遮断することができると言われています。
※ マスクは、ガーゼ製より不織布製が効果的です。また、サイズは顔の大きさにあったものを選び、鼻はワイヤー等で、口はブリーツ（ひだ）を広げ、アゴまでしっかり覆うよう指導してください。
※ 使用済みのマスクを外す際は、耳ひもを持って外すようにしてください。（マスクの内側や外側の面にはウイルスが付着している可能性が高く、接触感染の起点となります。）
- マスクを外しているときは、他人に向けてせきやくしゃみをしないよう、ハンカチなどで鼻と口を覆い下を向くなどの指導してください。（ティッシュで鼻や口を覆う方法もありますが、手にウイルスが付着する可能性が高いため、ハンカチで覆う形を指導してください）

⑤ 手は、こまめにしっかり洗い、きれいなハンカチでふきましょう。

（きれいなハンカチがないときは、手をアルコールで消毒する）

- 手洗いはあらゆる感染症予防の基本で、前述の接触感染防止のために行うものです。
- 手洗い方法については、ほとんどの学校で手洗い場にイラスト・写真表示していると思いますが、しっかり洗えてないケースも多いと考えられますので、十分指導してください。
- しかし、手を洗っても汚れたハンカチで拭けば、逆に手が汚染され、手洗いの意味がなくなってしまいます。（例えば、鼻水などを拭いたハンカチで手を拭けば、逆に手にウイルスが付着し、そこから接触感染することも考えられます。）

- 毎日清潔なハンカチを持参すること、ハンカチは共用しないことを指導してください。
- ハンカチを忘れた場合、ハンカチが汚れている場合は、アルコール消毒を行うよう指導してください。

⑥ 給食（食事）の前は、手をよく洗いましょう。

- 飲食は、体内に食品を取り込む行為ですが、その多くは手を使って行います。そのため、手がウイルス等に汚染されていれば、食品にも付着し、一緒に体内に取り込まれてしまいます。よって、飲食の前は、必ず手をよく洗うよう指導してください。
- また、給食当番は不特定多数の食品や食器等に触れるため、その手が汚染されていれば、集団感染につながる可能性もありますので、特に注意をお願いします。



⑤・⑥共通

- ※ 目に見えるような汚れが付着している場合は、アルコール消毒の効果があまり期待できませんので、手洗いをするよう指導してください。
- ※ 皮膚疾患等がある場合は、この限りではありません。

⑦ できるだけ、いつも10～20センチ、2方向の窓を同時に開けましょう。または1時間に2回、数分間程度、窓を全部開け、換気をしましょう。

- 前述の空気感染を防止するために行うものです。気候上可能な限り常時、困難な場合はこまめに（30分に1回以上、数分間程度、窓を全開する）空気の流れを作るため、教室の対角に2方向の窓を同時に開けてください。
- CO2モニターについても適切にご活用ください。
※ 必要換気量を満たしているかを確認する方法として、二酸化炭素濃度測定器を使用し、室内の二酸化炭素濃度が1,000ppmを超えていないかを確認することも有効。また、測定器の位置は、ドア、窓、換気口から離れた場所で、人から少なくとも50cm離れたところにする。（厚生労働省リーフレットより）
※ リコーダー演奏や合唱などが行われる音楽室、学習活動でのグループワークなどの場面で積極的に活用する。（CCAT会議より）

⑧ 休み時間には、お茶を飲んで、のどをうるおしましょう。

- 空気が乾燥している場合、気道粘膜の防御機能が低下していますので、お茶を飲むことが効果的です。
※ 「緑茶」は、ウイルスの細胞吸着・増殖阻害効果がある「カテキン」、免疫力を高める効果がある「テアニン」を含み、感染防止により効果的との研究報告もあります。

⑨ インフルエンザがはやっているときは、なるべく人ごみに出かけないようにしましょう。

- たくさんの人が密集しており、色々な病気に感染しやすい環境だといえます。
- 特にインフルエンザの流行期間中は、不要不急の外出は控えるよう指導してください。

⑩ 好き嫌いをせずに食べ、夜更かしをせずに早くねましょう。

- バランスのよい食事や十分な休養は、体内の免疫力を高め、体内にウイルスが侵入しても、発症を防ぐ効果が期待できます。